

グローバル化が急速に進み、国際感覚の醸成や英語力の一層の充実が求められています。文部科学省は平成32年度からの新学習指導要領でグローバル化に対応するため英語教育のさらなる充実に向け施策を実施します。

現行5・6年生で行っている「聞く・話す」を中心に英語に親しむ「外国語活動」を小学3・4年生に前倒しし、外国語活動を実施している小学5・6年生の英語は教科書を使って「聞く・話す」に「読む・書く」も加えた正式教科書になります。

また、移行措置による先行実施を平成30年度から行う予定です。



豊かな国際感覚・コミュニケーション能力向上を目指して

グローバル化に対応した英語教育について

こうした状況の中、町では英語教育のスムーズな移行及び国際交流事業を行う上で英語力の向上が必要になることから、いち早く事業を実施しました。町内小学校一校あたりの授業数は平成28年度と比較し、平均70時間程度増えています。授業内容としては、次の通りです。

自分の英語力を把握し、一歩上を目指す

■平成29年度の授業内容

●小学校低学年(1年生・2年生)

英語に慣れ親しむことや外国人講師とのコミュニケーション能力の基礎を養う。小学校3・4年生から始まる「外国語活動」、小学校5・6年生から始まる「英語科」の学習の基礎・基本を培う。

●小学校中学年(3年生・4年生)

英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の基礎を養う「外国語活動」の充実を図り、小学校5・6年生から始まる英語科に対する学習意欲の向上を図るに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めた学習の基礎を養う。そのため、学習の系統性を持たせる観点からより充実した時間を確保する。

●小学校高学年(5年生・6年生)

補助教材「Hi, Friends」を活用して、学習指導要領に定められた、言語や文化を体験することで理解を深める。積極的にコミュニケーションを図れるよう町ALTと複数の教師が協力して授業を行う。

国内留学体験について

英語力の向上や、国際理解・国際感覚の基礎を形成するとともに、国際コミュニケーション能力を育成するため国内留学体験の事業を始めました。さらに、小学校で学習した英語力を実践的に試すことや中学校での英語教育に対する学習意欲の向上を目指しています。

国内留学体験は小学校6年生の希望者を対象に日常会話や歌・ゲームを英語で行なう1泊2日のキャンプです。子どもたちは、身近に外国人とふれあうことで英語や外国人に対する抵抗感が少なくなり、異文化への興味・関心が高まっています。



●問い合わせ先 教務課 学務係 TEL 72-3111(内線175)

タイ王国の名門校 国立チュラロンコーン大学附属小学校と 姉妹校提携協定を締結



▲共に写真左から、坪根町長、スリン名誉教授、ティナコーン校長

チュラロンコーン大学附属小学校と上毛町立小学校4校は2015年から交流が始まりました。3年間で上毛町からは2回で49名の児童がバングコクを訪れ交流を行いました。一方、訪日事業でチュラロンコーン大学附属小学校の児童は2回で45名が上毛町を訪れ、町内4つの小学校で交流を行いました。学校交流以外にもホームステイや社会見学を行い、互いの文化や生活様式、習慣の違いなど、異文化交流を体験することができ、その交流が実を結び、本年5月に渡航し、姉妹校提携についての協議打合せを、校長始め学校関係者を行い、8月の本研修時において、過去からの積み重ねもあり姉妹校提携に至りました。今後は相互訪問に加え、お互いにビデオレターの交換やテーマを決めた絵画やポスターなどの美術作品の交流、インターネットの情報共有サイトを使った交流などが考えられます。

とで、自国にしながらの交流も実現させることができ、10月の訪日から翌年8月の訪タイに至る約1年間をつなげる交流方法を検討したいと考えています。そうすることで両国の児童がより親密になることができると考えています。

姉妹校提携は、多くの児童にとって異国の歴史や文化、自然に触れることができ、掛け替えのない大きな感動に浸ることだけではなく、双方の児童にとっても大きな明日へのエネルギーになると考えられます。さらに重要なことは、異なった文化圏に属している人々と、直接、接する機会が与えられるということにあると思います。

これまでの交流により築かれた信頼関係のもと、姉妹校提携を新たな出発点として、様々な分野における交流を一歩ずつ進めていきたいと考えています。そして、交流後も互いが切磋琢磨しながら共に成長し、大人になってからの友好関係がより一層深まることを期待しています。



●問い合わせ先 教務課 社会教育係 TEL 72-3111(内線172・176)